

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1070700214
法人名	NPO法人 お互いさまネットワーク
事業所名	グループホーム 喜楽
所在地 (電話番号)	群馬県館林市北成島町1829-5 (電 話) 0276-70-1326
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5コミュニケーション100 1-B
訪問調査日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(20年12月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(喜楽)	11 人	常勤 7人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.6人	
職員数(喜楽Ⅱ)	8 人	常勤 6人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.9人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ ☒ 独	新築/ ☒ 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18,000円
敷 金	有(円)	☐ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1		名	要介護2	5 名	
要介護3	5 名		要介護4	5 名	
要介護5	2 名		要支援2		名
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	堀越医院 海宝病院 石井歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の目指そうとしているケアに対する思いや方向が管理者・職員に理解されその理念が共有されている。「その人らしく、ゆったり、ゆっくり」がそれぞれのユニットにも表れている。運営者は個性を大切にしながら、サービスの質を向上させるため職員の研修にも力を入れている。また、人の持つ心の動きを取り入れた支援が行われている。それは、このホームの供用部分に現れている。遊びの空間を取り入れた供用部分は効率的ではないが、大切にされている。人は共同生活の中でも孤独でいたい時もあり、その場所が確保され、他者から隠され一人で居られる空間が作られている。その分職員は目配りや気配りを行い、その人らしい生活支援に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念→地域との関係はすでに出来ていたが言語化することにより、より明確になった。今回は職員会議で取り上げ全員で地域密着型としての理念を作り上げた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月に一度開かれる職員会議に取り上げ全員で自己評価に取り組んでいる。また業務改善担当者が任命されており、会議を行い決めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催されている。新しい試みとして家族会と運営推進会議を一緒に行ってみて3回目となる。運営推進会議には状況報告・研修報告等行っている。地区の区長が法人役員のため運営推進会議には副区長が参加している。防災訓練等は地域の人にも参加を呼びかけている。また家族より出た質問をQ&Aとして重要事項説明書や契約書などに盛り込んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望や不満など施設も知りたいと願い、アンケートを家族からとって運営に反映させたいと思っている。そのためいろいろな試みを考えている。今回は家族会に提案をして忌たんの無い意見を言ってもらいたい旨を話している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初より地域との関係を大切にして実践してきている。近隣の人達にクッキーのおすそ分けをしたり、散歩の時など声を掛けたり、野菜をいただいたりしている。自治会に加入しており行事の時には誘いを受け参加している。育成会の廃品回収などで協力している。またお祭りなどにも参加している。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価に基づき職員会議に取り上げ全員で取り組んでいる。開所の時点より地域との関係を大切にしていたが、理念の中に取り入れることにより明確になり職員の共有の意識が出来た。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや職員会議のときに管理者は理念を伝えている。また処遇に迷った時などは理念に立ち返り方向性を確認している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており育成会の廃品回収などには協力をしている。地域の人との交流も続いている。地域の人からは野菜をいただいたり、行事に誘われて参加している。また利用者と職員で手作りのクッキーを作ったときには隣組の人に配ることで、交流の機会を広げる取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解している。業務改善の担当職員が職員会議で検討をしている。評価を生かした取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催をしている。施設での利用者の生活記録など見ていただいたり、研修の報告などしている。また家族会と運営推進会議を一緒に行う取り組みも試みている。家族より契約書、重要事項説明書などの約束事をやさしく説明出来ないかとの意見で「Q&A」の形で質問を文書にして分かりやすく説明をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者また管理者は介護保険の更新申請など市に出向いている。運営者は市からの依頼あり出前講座で講師として講義なども行っている。法人として生活支援事業も行っており市との関係は多い。この地区では「介護相談員制度」の導入がまだ無いため、運営者は相談員制度があることで効率の良いサービスの提供が行えると導入を希望している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には健康状態の報告など行っている。月に1度の請求書を贈るときにはケア記録を同封し写真なども添えている。「お互い様便り」は別に家族に送っている。きめ細かく家族に利用者の現状を知らせ、理解をしてもらう努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族より苦情、要望のアンケートをとっている。運営者は家族から苦情や要望が言いやすい雰囲気や手段などの機会を作り運営に反映させたいと努めている。今年は家族会からの要望や意見を出してもらうように提案をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は出来るだけ少ないほうがよいと管理者は思っている。異動は去年は無かった。職員のレベルアップのために運営者は介護のマナーを防ぎたいと思っている。利用者へのよりよいサービス提供を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員の質の向上には研修が大切と思っている。職員も研修に参加している。基礎研修・実践者研修はすでに全員が参加している。リーダー研修や人材育成の研修等職員の研修の充実が管理者の目標となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は地域密着型連絡協議会の研修委員をやっている。交換研修、レベルアップ研修を担い、東毛地区ネットワークで活発に交流が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあると施設から面会に行く。その後家族や本人に施設に来てもらい雰囲気を味わってもらおう。デイサービスを利用してからグループホームの利用につながる場合もある。お茶など飲んでもらったり、馴染みの関係を築いてもらい入所に結び付けている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の持っている力を活かしてもらい、味付け、洗濯物のたたみ方などアドバイスをしてもらっている。職員は介護するという思いではなく利用者から人生を教えてもらう気持ちで支えあいながら時間を共に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度の重い人の多いユニットのほうでは、本人のしぐさや表情と声掛け等で気持ちを汲み取っている。もう1つのユニットでは利用者同士の会話を職員は気配りしながら聞き、意向を確認しようとしている。その他家族からも情報をもらい、本人の思いを汲み取る努力をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に対して職員は担当制がとられている。家族にとっては同じ職員に相談が出来ることで、情報の共有や信頼関係が作りやすくなる。担当者と家族と本人とまずアセスメントして大まかな計画を立てる。その後職員全員の会議で話し合われ介護計画が出来る。家族には同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に一度行われている。また随時の見直しをしている。3ヶ月毎のモニタリングが行われている。ケアポイント、ケアプランの目標が端的に示されており、統一したケアが提供されるような工夫がされている。	○	ケアポイントと介護の目標が職員に共有されていて統一したケアの提供がされている。さらに月に一度のモニタリングを行い本人の状況の確認をお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助や利用者の希望でお墓参り、美容院へ行ったり、入院中の親族の見舞いなど支援を行っている。		
、					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅のときからのかかりつけ医を入所後もお願いをしている。希望が無い場合にはホームの協力医院を紹介している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに重度化に対しての家族の希望をアンケートでもらっている。アンケートは主治医と相談し、施設としてどうするか話し合いを持った。それを基にマニュアルを作成している。ターミナルの希望が家族からあった場合についてホーム、家族、主治医との連携をとり家族の意思を大切にした方針の共有が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は会話などに気を配っている。また書類の整理、記録などにも情報の取り扱いに気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々その人からさりげなく意向を聞きだしている。一人ひとりの思いの実現を支援している。個別の対応としてドリル、作文、運動、などを楽しんでいる。また「自分の家を見に帰りたい」という人には家族の了解を得て自宅に戻ったりし希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は食事を一緒に楽しんで食べている。食べる事を大切にしているので気が散らない支援をしている。時間がかかる利用者さんも食べる事に集中できる支援がされている。配膳、下膳、調理、下ごしらえなど出来る人は職員の見守りの中、役割りをこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂はユニットごとに週1日だけ行事などのために休みとなっている。週6日14時より本人の希望を取りながら入浴している。入浴を嫌がる人には声掛け、工夫などをして入浴を楽しめる支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニット毎に役割りに特徴がある。職員は介護度が高くなっても役割りを持ってもらう支援を行っている。お絞りたたみ、洗濯物干し、洗濯たたみ、茶碗洗い、掃除、テーブル拭き等してもらい御礼を言っている。またお酒、外食、焼肉バイキング、全員でレストランに出掛けるなど楽しみごとがある。気晴らしにはドライブ、野鳥の観察など行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しには歩いて近所のスーパーに行っている。天気の良い日には散歩を行っている。外食などにも出掛けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開錠されており、利用者はいつでも外に出られる支援がされている。猫を飼っているユニットでは猫がつめを研いだり、粗相をするので部屋が留守のときには自室に鍵を掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。消防署立会いで夜間を想定した訓練をユニット毎交代で行っている。近隣の人にも参加してもらい協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録はケア記録に残されている。水分補給を大切にしている10時、15時にも水分の補給はされている。把握の必要な人には指示が出されている。	○	高齢者には水分摂取は健康維持のために大切な事なので、利用者の健康状態把握のためにも利用者全員の水分摂取量を記録することをお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用空間にはテーブル、椅子、ソファ、テレビがあり、外の菜園や垣根などを見ることの出来るガラスの扉がある。外の植物により季節を味わう事が出来る。供用空間のほかに隠れ場所があり一人での時間を楽しむ事が出来る構造になっている。キッチンはずぐ脇にあり調理の音、料理の臭いが空間に漂う。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋はたたみの部屋で扉は引き戸となっている。部屋に入るには廊下から一度曲がり自分の部屋の戸を開ける構造なので廊下から部屋が見えないためプライバシーが守られている。部屋の中には作品が飾ってあったり、仏壇があったり、箆、椅子などなじみのものが置かれている。個性のある部屋になっている。		